

川柳 二十八年三月 「間」「書く」

読書する 眠気が誘う 間引き読み 堀 輝規

去年より 孫の落書き 見栄えする 堀 輝規

メモ書きを してはみたけど 何処にある 堀 輝規

書いた字が 間違っていて 恥かいた 伊藤 直人

パソコンは 書く能力を 奪います 伊藤 直人

長かった 四十四年間の 教師業 伊藤 直人

エンディング ノート書けと 言われても 山本 昭子

話の間 聞くもするのにも 大事です 山本 昭子

生きてる間 宇宙で一瞬 ゴミになる 山本 昭子

約束の 時間にもいつも すべりこみ 西沢 秀子

間の悪さ トイレにいと 鳴る電話 西沢 秀子

手のひらに 一文字書いて 飲み込んで 西沢 秀子

いつの間に 沖繩サンゴ 半減か 藤原 輝治

間もなくね さくら満開 つばめ来る 藤原 輝治

新調の ズックに名前 手書きしよ 藤原 輝治